

|        |           |     |           |
|--------|-----------|-----|-----------|
| 提携先    | (株)高橋徳治商店 | 記入日 | 2008/9/30 |
| 登録消費材名 |           |     |           |

### ．これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

|  |
|--|
| <p>1、 無添加練り製品と取組30年目に入りました。生活クラブへの練り製品供給23年になりますが、季節・漁場・魚体によって違って来る素材(魚)をみて、素材そのものが喜んでくれる事、そして安心・安全の元に子供からお年寄りまで、各層にわたって美味しいと喜ばれる食品作りに努力しています。</p> <p>2、 原料は石巻港に揚がる前浜の新鮮な原料から、前浜のすり身工場にて、工程のみえる練り製品作りをしています。</p> <p>3、 生活クラブと協力、努力して問題解決する。改善、企画等の提案。</p> <p>4、 環境負荷の少ない生産環境に配慮している。</p> <p>5、 積極的に組合員交流や学習会に参加し、【安全・健康・環境】に関する呼びかけ情報を提供しています。</p> <p>6、 原材料のトレーサビリティ<br/> ・産地・製造時の安全確認・情報開示を呼びかけている 他の生産者に【安全・健康・環境】に関する呼びかけを行っている。</p> <p>7、 品質・衛生に関する管理向上と社員教育に努力している。<br/> ・品質に関しては、製造時の試食の他、毎日の作業後、担当者試食会実施により更なる品質向上をめざす。<br/> ・衛生に関しては、朝の衛生チェック・健康チェックから始まり、製造ライン・容器、人の手や腕、原料検査等、毎日検査検体【製品検査25検体、ライン・人容器等のふき取り検査270検体】を実施し、製造衛生管理の向上に努めています</p> <p>8、工場生産上 原魚高、食用油脂、でんぷん、エネルギーコスト、今後ますます値上げが予想される包装資材、物流費、最低賃金上昇など人件費、人員確保などコスト増が生産に大きく影響すると予想されるが、これまで以上に素材を生かした魚加工に努力していきたい</p> <p>9、廃油を定期的に障害者施設に提供し石鹸にしております。</p> <p>10、本年度より上記施設の他、食用廃油をバイオエタノール(バイオデ-ゼル向け)にリサイクルしています。</p> <p>11、「4-2-A-02」の項目について洗濯は、石鹸を使用しているが、油を使用している製造ラインについては、油が落ちない為、現状ではやむをえず合成洗剤を使用しております。</p> |
|--|

### ．前年に努力したことへの評価(成果や課題)

|   |
|---|
| <p>1、 生産現場での取組み<br/> ・昨年に引き続き 原料管理、生産管理、加工機械管理、品質管理、ロス管理、在庫管理、各部門設定 特に水道・電気に関しては、実質数字を明記し全社員への呼びかけ、効率化を図っております。生産に関しては、クズ=廃棄 を減らす努力し生産性を上げます。<br/> ・生産機械～包装機等の管理・・・前年に引き続き、今期も業者によるメンテを実施大きなトラブルはありませんでした。</p> <p>2、前年度計画の労働安全委員を各部署の衛生担当者に兼任し、定期的な労働安全・衛生教室を設置年間計画を実施致しました。<br/> ・4月・5月・6月・7月・8月の5ヶ月間・・・労務士講師を招いて労働安全衛生教室を実施し、委員を中心に活動致しました。よって工場内外の衛生や怪我等改善できました。<br/> ・地震対策では、非難訓練実施し 緊急時のそれぞれの役割分担を確認しました。</p> <p>3、 積極的に組合員交流や学習会に参加し、【安全・健康・環境】に関する呼びかけ情報</p> |
|---|

を提供しています。

・ 2007年度交流会実施・・・28箇所・・・約900人（北は青森 南は長野迄）

4、六ヶ所村核燃料リサイクル施設反対運動を2006年11月から県内外に広め署名活動継続中

・賛同人や呼びかけ人として県内の反対集会に参加いたしました。広く集会参加人をお願いし継続して広がりを見せております。県外の組織とも提携しての広がりも確認できました。今年度は、石巻でも核燃料廃棄物リサイクルの問題で集会を持ち仙台とも連携し学習会を行いました。活断層の問題についても隣の女川町議員、市議会議員、県議会議員も含めた市民対象の学習会を催しました。

5、昨年に引き続き、生活クラブ岩手が出資している大豆工房（生活クラブ岩手と山形に豆腐を提供している豆腐工場）への菌管理を指導しておりますが、消費材豆腐揚げ原料豆腐は問題なく供給できています。

### ・上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

#### 1、生産現場での取組み

・加工部門スタッフのそれぞれの課題を個別面談して目標を設定しました。結果技術面向上～などレベルアップにつながり、6月～7月以降新たな目標設定に向け進めております。

・原料管理、生産管理、加工機械管理、品質管理、ロス管理、在庫管理、各部門設定

ロス管理、在庫管理に関しては、実質数字を明記し全社員への呼びかけ、効率化を図っております。結果達成できた事、できなかった事等新たな取組みを昨年度に引き続き継続していきます

・年間かなりの数量にのぼる製造ラインでも製品ロスについて、2008年1月より日報を刷新し、機械、ライン、熱効率、製造工程など色々な側面からロスの原因を探り、今秋より具体的なロス低減を行い24%削減を目標にしました＝わずかでも原料高騰に伴う製造原価の上昇をおさえ水産資源の無駄を減らし、廃棄物処理の環境負荷や処理費用を減らします。

・液体窒素を冷却や凍結で使用しておりますが、逆れば空気を機械的に圧縮して液体酸素と窒素を取り出しており、メーカーではかなりの電気を使っています。使用量の削減は製造経費の削減と電気の削減になります。昨年度は5%の削減を達成できました。今期も引き続き5%削減を目標にします。

・年間の補修、故障修理など自社でできる保守管理と簡単な修理は内製化して社員の意識向上にもなりました。今年度につなげます。

2、積極的に組合員交流や学習会に参加し、【安全・健康・環境】に関する呼びかけ情報を提供しています。できる限り今年度も参加組合員拡大に努めて参ります。

・昨年度は、食料資源・環境問題・水産問題も含めて国産自給で合成添加物不使用とトレースのことに話しを広げて参りました。

・本年度は中国餃子問題や家庭の中の食にまで話をしたいと考えております。遺伝子組み換えや六ヶ所村問題も。

#### 3「04-8-A-01」項目

・高濃度の汚水の出るスリミ工場の汚水に関しては、30年前より組合での一次処理、市の処理場での終末処理と河川放流基準を遵守しておりますが、廃業が相次ぐ中で、組合の経営も厳しく私どもも含めて現在3社のみ汚水を流しており組合経営を維持しております。

・本社工場では、低濃度の汚水のため、簡易沈殿槽を通して、市の下水処理場で処理しておりますが、魚油や食油の油分のより一層の軽減に取り組むことを考えております・・・さつま揚げラインに関して食用油のハネ、漏れなどを改善し軽減することで汚水排水中の油分を削減し汚水処理場への負荷を軽減しました。

・トイレの水の節約で節水装置を取り付けました。30%以上節約を目指します。（80名が一日4回で大小で平均1リットル-節水し270日で86トンの節水を目指します）

#### 4、「5-1-A-1」の項目

洗濯は、石鹼を使用しているが、油を使用しているラインについては、油が落ちない為現状ではやむをえず合成洗剤を使用しております。目標として合成洗剤使用量を減らす努力を実施しております。今年度も引き続き使用箇所の見直しを含め使用量を減らす努力を致します。

5、500トンの冷凍倉庫の断熱材を替えて保管物の品質向上、冷凍効率、電気節減に冷媒は、環境を考え代替えフロンにせず、アンモニアで来春は、30年前の冷凍機の電源関係を地震対策で改善し、合わせて電気の節減も目標にしております。使用電気の節減と温度変化での原料・商品の品質安定のため、またトラブルなどでの停止をなくす目的で、今年度より冷凍機工事会社と月2~3回の巡回含むメンテナンス契約を結びました。庫内の温度の安定とおそらく電気量の削減に繋がると考えます。

・大型冷凍保管庫の自動霜取りではできない霜の除去を定期的に行い庫内温度の安定化で原料や商品の品質を保持し電気節減しました。

6、食品衛生指導員 4名おりますが、今年度はもう1名増員の予定でしたが実施できず今期2名の講習予定=衛生管理・製品管理の強化につなげて参ります。7、現在や近い将来から原料確保を想定し、赤身魚の加工品の企画提案を行っている・・新年度にサンマ始め三陸のサバ加工品を提案し8月から順次企画されています。来年に向けて多獲性魚種の提案を引き続き行います8、水産協議会において消費する側の実態と対策の話と、ある意味流通業の面を持つ生協の方向性の話と、もっとも危機感を持っている生産者の現場や産地レベルの話と、分けての議論が今年初めてされてきたが、今後もっと深めた議論が必要と考えます。9、原料となる原魚（魚介類）が、産地とは言え国際的な相場の動きに連動して高値になって おります。水産魚介類の輸出がどんどん増えて原魚不足にも拘らず、消費する側には 危機的な意識が見られない。5年後或るいは10年後を考えた時、原魚原料に関しては 国内外含めてかなり悲観的な見方しかできない。 その様な状況にも拘らず、来るべき（或はもう到来している）原魚確保難、資源枯渇、価格高を消費側と連携して中期的に今後3年間をどの様な水産、消費材政策で生協としての役割を果たして行くのかを考えて行きたい。